

1. 趣旨

この報告書は、「図書館法」(昭和25年法律第118号)第7条の3、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成24年文部科学省告示第172号)、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」(平成21年教育委員会規則第6号)第1条の2及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」(平成6年教育委員会規則第9号)第2条に基づき、令和3年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

2. 評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第3章 実施計画編(令和3年度～令和5年度)の具体的な施策に沿って行った取り組み内容と、目標値等の達成度に基づき、令和3年度の市川市立図書館の評価を行った。

3. 評価の基準について

市川市立図書館の「7つの施策の方向」の各項目について、取り組み内容と目標値の達成度を総合してA～Dの4段階評価を行った。これに基づき、総合結果として「3つの柱」についての取り組みを4段階評価で表した。(3つの柱と7つの施策については市川市立図書館運営基本計画 p.7を参照)

実施内容	評価
十分達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。)	A
概ね達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。)	B
やや不十分だった。(実施したが、十分な成果をあげることができなかった。)	C
不十分だった。(実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。)	D

4. 自己評価結果

令和3年度は、「市川市立図書館運営基本計画」の3つの柱のうち「子どもの成長をサポートする図書館」、「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」の2つについては、目標を達成することができA評価となった。特に、子どもへのサービスについては、非来館型サービスとなる読み聞かせの動画配信を開始するなど、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、子どもと本を結びつける活動を積極的に展開した。また、地域行政資料については引き続き積極的な収集を行い、パスファインダーや図書館ウェブサイトなど様々なツールで地域情報を発信することができた。

「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、非接触でセルフ対応できるIC機器の利点を活かしたサービスを展開することができたが、資料予算減額により、蔵書の受け入れ冊数が目標値に至らずB評価となった。

全体としては、7つの施策の方向のうち4つがA評価、3つがB評価であったが、令和3年度の目標は概ね達成でき、一定の成果をあげたと評価ができる。

5. 令和3年度市川市立図書館評価に対する外部有識者からの意見 …詳細は別紙

外部有識者2名(図書館情報学)から、令和3年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価は概ね適切であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

令和3年度「市川市立図書館運営基本計画」に基づく図書館評価結果

総合結果

1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

評価	<input type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input checked="" type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	--------------------------------------	---	---------------------------------------	-------------------------------------

コロナ禍が続く中、職員を介さずに非接触でセルフ対応できるIC機器の利点を活かしたサービスを展開することができた。また、関連施設の開館日の拡大などにより、北部地域の図書館サービスの拡充を図ることができた。

資料の受入れ冊数については、資料予算減額のため、目標値には届かなかったが、蔵書のバランスを考慮した資料収集を行うことができた。今後は、電子資料の導入に向けて調査・検討を行い、紙資料と電子資料の双方から、幅広い情報が得られる図書館を目指していく。

2. 子どもの成長をサポートする図書館

評価	<input checked="" type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

前年度は中止となった集会行事を、新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じながら再開し、コロナ禍でも子どもの読書欲を掻き立てる試みとして新たなイベントも開催した。また、図書館ホームページのリニューアルに伴い、こどもとYAのページを設けて、非来館型サービスとなる読み聞かせの動画配信を開始した。

今後も、コロナ禍での行事を工夫しながら実施し、積極的に読書支援、図書館利用の促進を図っていく。

3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評価	<input checked="" type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

パスファインダーや図書館のホームページなどさまざまなツールで、地域情報を積極的に発信することができた。また、行政各部署と連携した行事や展示を行い、行政情報を市民に提供することができた。特に、行政部門と連携して、中央図書館に設置したSDGsブックコーナーは、図書館で作成したパスファインダーとともに幅広い年代に利用された。

今後も、地域の文化を後世に伝えるために地域資料の整理を進め、資料の電子化に継続して取り組み、情報発信を積極的に行っていく。

令和3年度の取り組み内容

一つめの柱 情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向 1-(1)「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替えによる蔵書の適正な維持(購入と寄贈の合計冊数)	50,000冊	32,640冊	B
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査・検討	調査・検討	
	・障がいの特性に応じた資料の収集と目録の整備	DAISY図書目録の作成	DAISY図書目録追録版作成	
③効果的な蔵書管理	・全館的なICタグによる蔵書管理の発展的な実施の検討	IC機器の活用	IC機器の活用	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の設置と活用	可動式書庫の活用	可動式書庫の活用	

実績と評価

前年度は臨時休館期間があったため、令和元年度に導入したIC機器を十分に活用することができなかったが、3年度はコロナ禍が続く中、資料を予約した上で来館し、予約受取コーナーで職員を介さずにセルフ貸出をするという利用パターンが増加し、IC機器の利点を活かしたサービスを展開することができた。

蔵書の受入れ冊数は、資料予算減額のため、目標値の65.3%に留まったが、寄贈図書の活用や複本冊数の調整、適切な新刊書の購入等の対策を行い、市民のリクエストにも応えつつ、蔵書のバランスを考慮した資料収集を行うことができた。

課題

千葉県内でも電子資料の導入が徐々に進んでいる。図書館向けに販売しているコンテンツの充実はまだ十分とは言えないが、電子資料の特性を活かしたコンテンツの収集及び提供や、自館で電子化した地域資料のデジタル・アーカイブサービスの充実など、電子図書館の環境を整えることが必要となっている。

方向性

電子資料の導入のために調査・検討を行い、紙資料と電子資料の双方から、幅広い情報が得られる図書館を目指す。

施策の方向 1-(2)「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①レファレンスサービスの充実	・レファレンスツールおよび事例集の提供	継続発行、 発展	継続発行、発展 (発行数 14)	A
	・市内外の図書館等との連携の強化 (レファレンス協同データベースへの事例提供)	実施 (200 点以上)	実施 (282 点)	
	・市民の学習要求や調査研究に応えるデータベース等の提供及び利活用の促進	実施	実施	
②利用しやすい情報環境の整備	・図書館ホームページ、デジタルコンテンツ等の情報環境の整備	整備・実施	実施	
	・非来館型サービスについての調査及び導入の検討	検討・実施	検討	
③生涯学習機会の拡充	・中央図書館及び地域図書館、自動車図書館の特性を活かしたサービスの拡充と PR による利用の促進 (図書館利用登録者数の拡大)	前年度比増 (前年度 16,290 人)	22,840 人	
	・北部地域の図書館サービスの拡充	実施・周知	実施と周知	
	・イベントの開催や地域イベントへの参加・協力	検討・実施	実施	

実績と評価	<p>レファレンスサービスは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面でのレファレンスを中止した期間があったが、クイックレファレンスやメールでのレファレンスが增加し、全館で 52,489 件の受付・回答となり、前年度より 7,506 件増加した。事例集である「参考業務月報」を 6 回発行したほか、市民の調査研究に活用できるよう、既存のパスファインダーを点検し、8 つのパスファインダーの作成・改訂を行った。また、その事例等を協同データベースに提供した結果、被参照件数など 3 点の項目で基準を上回り、国立国会図書館から感謝状を受け取った。</p> <p>図書館ホームページはサイトのリニューアルに伴い、こどもや YA のページを新たに設け、対象別のわかりやすい発信が可能となった。こどものページでは、非来館型サービスとして、読み聞かせの動画配信を開始した。</p> <p>図書館利用の登録者数については、イベント等による登録者数を増やす試みは行わなかったが、前年度は休館があったため、前年度比では 140.2%と目標値を大幅に上回ることができた。</p> <p>北部地域の図書館サービスとして、西部・曾谷公民館図書室の開館日を増やし、菅野公民館に新たに返却ポストを設置した。また、大野・西部公民館図書室でのリクエストサービスについて、6 月から視聴覚資料、1月から市内未所蔵資料と対象資料を順次拡げ、市外図書館から借用した資料の貸出・返却も可能とした。</p>
課題	電子図書館の導入や Web での新規登録サービス等、新たな非来館型サービスについて検討し、図書館利用に繋げる方法を模索していく。
方向性	新型コロナウイルスの感染状況等社会情勢を注視しながら、対面型イベントの実施やホームページを活用したイベントの発信、レファレンスサービスの周知など、来館型・非来館型サービスをバランスよく実施していく。

施策の方向 1-(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①関係機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	・関連施設との連携による図書館サービスの充実	実施	実施	B
②大学図書館との連携と利用の促進	・市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施	実施(1 件)	
	・市内大学及び大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互 PR と利用の促進	実施	中止	
	・大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施	
③ボランティアとの連携強化	・図書館友の会と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	検討	中止	
	・障がい者サービス関連のボランティアと連携した、障がい者向け資料の作製と収集	実施(20 点)	実施(40 点)	

実績と評価	<p>千葉商科大学及び和洋女子大学については、前年度に引き続き、年度を通じて学外者が入構できず、利用のための紹介状の発行や相互利用の PR 等が実施できなかった。また、図書館友の会も活動を休止し、共催行事を実施することができなかった。一方、コロナ禍でも作製活動を続けている障がい者サービス関連のボランティアからは、点字資料や DAISY 図書などの成果物を 40 タイトル受取り、目標値を上回ることができた。</p> <p>大学の図書館実習は実習期間を短縮して実施し、前年度休止したインターンシップの受入れも再開した。</p>
課題	新型コロナウイルスの感染対策と社会活動の両立ができるよう、活動再開に向けた図書館友の会との協議など、ボランティア活動の支援、協力体制の維持が課題である。
方向性	大学や関連施設との連携により、各地域における図書館サービスの充実と地域住民の利便性の向上を目指す。また、ボランティアとの連携により、質の高い図書館サービスが提供できるよう努めていく。

二つめの柱 子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向 2-1)「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新(購入と寄贈の合計冊数)	9,000 冊	6,877 冊	A
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施と情報の発信	継続実施	継続実施	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についてのレファレンスツールの整備	レファレンスツールの作成	レファレンスツールの作成	
	・大人に対しての子どもの本についての読書相談等の実施	実施	実施	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中学・高校生のもつ課題の解決(学習、生活、進路等)を支援するための資料の提供	実施	実施	
	・図書館と中学・高校生を結びつける行事の実施や刊行物の発行	実施	実施(15回)	
	・中学・高校生へのヤングアダルトサービスのPR	実施	実施	

実績と評価

資料の充実については、絵本や実用書を重点的に買い替えたが、資料予算減額のため、受入れ冊数の達成率は目標値の約 76.4%に留まった。寄贈書の受入れは増加した。

行事の実施については、新型コロナウイルスの感染拡大防止を講じつつ、定例の「えほんの会」等の回数を減らし、参加人数を制限して再開した。絵本作家の宮本えつよ氏のワークショップを実施、27名の参加があり、大変好評を得た。図書館ホームページのリニューアルに伴い、こどものページ、YAのページを作成し、そこで非来館型のサービスとして、新たに郷土の絵本の読み聞かせ等のYouTube動画を8本公開した。また、コロナ禍でも子どもの読書欲を掻き立てる試みとして、「くま館長からの挑戦状」を夏休み期間に実施し、「わくわくいっばいふくぶくろ」等に加え、館内に長く滞在しなくても楽しめる取り組みを行った。おすすめの本のリストも3種類作成し、配布した。パスファインダーは「SDGsについてしらべよう」「絵本で学ぼうSDGs」を作成し、一般の特集展示にからめることができた。

ヤングアダルトサービスについては、夏休み期間に「YA“夏季”氷本」を、毎年冬に行っている「YA 図書館本A-Z」とともに実施し、「YA通信」「YA通信 入門編」等の刊行物は継続的に発行・改訂してPRに努めた。

課題

引き続き、利用者の安全性を確保しながらイベントの開催や運営等ができる方法を模索していく必要がある。

方向性

コロナ禍前に行っていた定例行事を、感染対策を実施しながら徐々に戻していく。同時に非接触型の行事も工夫しながら実施していく。

施策の方向 2-2)「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・「出張おはなし会」「学級招待」の対象学年の拡大とプログラムの充実	実施充実	中止	B
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力	継続実施	継続実施 (資料依頼 479 件)	
	・学校図書館向け貸出資料の更新	前年度並 (260 冊)	249 冊	
	・外部機関等と連携した児童・青少年サービスの実施・充実	実施	実施	

実績と評価

前年度に引き続き「出張おはなし会」「学級招待」は、コロナ禍で中止せざるを得なかった。「学校図書館支援センター事業」については、予定通り実施し、前年度より依頼件数、貸出冊数は増加した。学校図書館向けの貸出である「学級文庫」については、特別支援学級向けのセットの依頼の増加により10セット追加した。毎年市内中学生に作成してもらっているヤングアダルト特集展示のためのポスターは、継続して実施した。また、市内の中学校や高等学校で作成されたPOP等を借用し、館内で展示した。不二女子高等学校の2年生の調べ学習においては、事前に職員が学校に赴き、図書館の使い方の説明を行った。外部機関との連携イベントとして、小学生高学年から中学生向けに明治安田保険相互会社の包括協定における「金融・保険セミナー」を実施し、明治安田保険の講師の講座の後、図書館から関連する本の紹介をした。

課題

学校図書館向け貸出資料については、学校から求められる資料を提供できるように計画的に購入し、充実させていく必要がある。

方向性

学校図書館への支援や外部機関との連携は、感染対策に十分考慮した様々な取り組みを揃えて、状況に応じて選択できるよう用意していく。学校や外部機関を通して、子どもと保護者に向けて読書の大切さをPRし、積極的に読書支援、図書館利用の促進を図る。

三つめの柱 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向 3-1 「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理 (地域行政資料の蔵書冊数)	60,000 冊	62,069 冊	A
②地域資料の保存	・地域行政資料の電子化	継続実施	実施	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域情報の追加及び更新	実施	実施	

実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集した結果、蔵書冊数は目標値を大幅に上回る事ができた。

中央図書館では、館内データベース端末で、房総蜻蛉研究所・行徳トンボ研究室よりデータの寄贈を受けた「トンボ通信」を創刊号から順次公開したほか、「市川の音楽」として「市川市歌」「市川讃歌」など6曲を試聴できるようにした。

図書館ホームページはサイトのリニューアルに伴い、トップページに地域情報への扉となるバナー「地域情報を探す」を新たに設けて、地域情報関連データベースなどの地域情報へのアクセスがしやすい環境を整えることができた。

また、地域資料のパスファインダー「市川の地名」を新たに作成し、「八幡のやぶ知らず」「市川市に関する浮世絵」を全面改訂し、ホームページも更新した。中央図書館の絵画ラックでは、「市川市に関する浮世絵」の改訂に伴い、パスファインダーに掲載した浮世絵の複製画を展示し、配布用のパスファインダーも多くの方に手に取っていただくことができた。

課題

地域行政資料を永く保存していくための十分なスペースの確保と、資料の劣化対策として資料の電子化を計画的に進めることが課題となっている。収集・保存している資料については、電子化への取組みとともに、デジタルアーカイブ・システムの活用を進め、広く市民が利用できる環境を整備する必要がある。

方向性

地域行政資料の積極的な収集と受入れに努め、引き続き資料の充実を図るとともに、地域行政資料・情報の整理を進めていく。著作権保護期間満了の資料の電子化に取り組み、デジタルアーカイブ・システムで館内公開する資料を追加更新し、ホームページの地域情報関連ページを活用した情報発信を積極的に行っていく。

施策の方向 3-2 「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施	継続充実	実施充実 (14回)	A
	・市の刊行物等の販売及び行政情報リーフレット等の配布	継続実施	配布のみ実施 (販売休止)	
②行政各課への情報発信	・図書館で利用できるデータベース等、レファレンスツール情報の市の行政各部署への発信	実施	実施	

実績と評価

行政各部署や関連団体と連携した展示は、スポーツ課、環境政策課、健康支援課、子ども家庭支援課、文学ミュージアム等と実施した。また、SDGs を推進する健康都市推進課と連携し、中央図書館の書架を利用して一般書と児童書が混在した「SDGs ブックコーナー」を設置した。図書館で作成したパスファインダーとともに幅広い年代にSDGs関連の資料が利用された。コロナ禍が続いたため、関連機関と連携した集会行事は減少したが、市川駅南口図書館と和洋女子大学と連携した講座をZoomで開催した。

行政各部署でもレファレンスサービスを利用してもらえよう、関連部署にレファレンス事例集を配布している。内容的には好評であったが、PRが足りないという指摘があったため、図書館だけでレファレンスの特集を組むなどPRに努めた。

課題

市民に向けては、図書館が集約した幅広い行政情報を、誰でも使えるように整理し、どこでもいつでも、わかりやすい形で情報提供していくことが課題である。行政各部署に向けては、図書館が行政情報の集約・整理に努めていることを周知させていくとともに、行政に役立つパスファインダー等の作成に取り組み、これらを情報発信していくことが必要である。

方向性

行政各部署や市内関連団体等と連携して、市川への理解と愛着が深まるような魅力的な展示やイベントを企画し、身近な行政情報を市民に積極的に提供していく。

また、行政各部署には、図書館で利用できるデータベース等、役立つツールの活用法をわかりやすくPRし、図書館のレファレンス機能を地域の課題解決やまちづくりに役立ててもらえるように情報発信をしていく。

3つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者(図書館情報学)2名から意見をいただいた。

1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

・蔵書は図書館の生命線である。令和3年度の図書費が、前年度から22%ほどの減額となったことから、受入冊数が目標の65.3%にとどまったことに、図書館サービスの低下が避けられないのではないかと危惧している。減額に対して、図書館では種々の試みをされているが、蔵書の絶対量を確保するための措置を早急に図ってほしい。

電子資料については、調査・検討の状況が続いているが、そろそろ試行に移ってもよいのではないかと考える。その過程では、電子書籍、データベース、デジタルアーカイブなどについて、所有(備品、消耗品)ではなく、アクセス(使用料、委託料)として、資料費の概念を拡大する必要があるようにも思われる。

サービス全般については、新型コロナウイルスへの対応として、本来のサービス提供に大きな制約があったものの、さまざまな工夫や努力が見られ、市川の図書館の実力が発揮できたものと評価している。

・予約・セルフ貸出による利用をはじめ、いわゆるウィズコロナ・アフターコロナにおけるサービスに向けた取り組みが進められている。非来館型サービスの拡充も求められるところであるが、子どもやYAなどの対象別ウェブページを設定するなど、できることから着実に実施されていると受け止められる。電子コンテンツについては、図書館で導入できる電子書籍が十分に普及していない現状そこまで拡大していない状況も踏まえ、市川だからこそできる、市川だからこそ求められる地域資料の電子化などを重視することも大切であろう。

レファレンスサービス(質問・回答)の事例集をまとめたり(参考業務月報)、パスファインダーを更新したりといった活動は、図書館サービスを「見える化」するものともいえ、いわゆるPRとしても有効であり、利用者(市民)の図書館利用の活性化や情報リテラシーの向上などにも資すると考えられる。ウェブの活用などにより、さらに展開されることを期待したい。図書館の負担だけを増やすかたちではなく、関連機関を含む地域との協働を進めることで効果と効率の両立をはかることも考えられよう。

2. 子どもの成長をサポートする図書館

・子どもの本もまた、図書費の減額に伴い、受入冊数が目標の76.4%にとどまったことは非常に残念である。児童書や絵本は、定期的な更新(同一資料の買い替え)も必要であるだけに、子どもたちの読書意欲を減じることになりはしないかと懸念している。

読書推進行事と学校図書館支援は、市川の図書館の質の高さを示すものであるが、コロナ禍において、動画配信などを実施するなど、可能な限りのサービスを提供できたことと評価している。

・コロナ禍で思うような活動が展開できないなかで、子どもやYAなどの対象別ウェブページを作成したり、回数・参加人数を工夫して行事を再開したりしている点に努力と工夫が見られる。読み聞かせ動画の配信など、新たな取り組みも展開されており、コロナ禍でなくとも、遠隔・閉館時の利用拡大につながるものとして高く評価したい。

資料予算削減により、一般書と同様に児童・YA資料の受入冊数も目標値には達していないが、「量」のみでなく「質」も重要であることから、必ずしもネガティブには受け止めなくてよい面もある。市立図書館だけでなく、着実に実行されている学校図書館等との連携などを基盤として、YAを含めた子どもたちが生活全体のなかで資料にアクセスできる環境を整備するという観点が今後はさらに重要となつてこよう。

3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

・地域行政資料の充実が、市川の図書館の声価を高めるものになりつつあると認識している。蔵書冊数が目標を大きく上回った収集面だけでなく、図書館ホームページからの容易なアクセスや、関連するパスファインダーの用意など、今後のサービスの展開につなげていることは大変よい流れである。

地域行政資料は公立図書館の地力を示すもので、一般の市販資料も重要であることに変わりはないが、持続可能な図書館であるために、図書館でしかできないことに、更に知恵を絞ってほしいと願っている。

・公立図書館にとって、行政資料を含む地域資料は、他の自治体に委ねることが難しい、極めて重要なものである。目標を上回る資料の収集、音楽を含む資料のデータベース化、ウェブサイトにおけるパナーの設定、地域資料のパスファインダーの作成など、工夫された取り組みが積み上げられていることがわかる。今後は、ウェブ活用を含めて、さらなる拡充とともに、周知・活用促進が進められることを期待したい。

行政各部署との連携も確実に展開されている。とりわけSDGsブックコーナーなどは、市全体として恒常的に重視されるべきテーマであり、高い評価に値する。

アフターコロナ・ウィズコロナに向けて、「市川ならではの」「市川だからこそ」の情報・文化の担い手として、対面のイベントなどを含めたさらなる活動がなされることを願いたい。

総評

・コロナ禍にあっても、創意工夫によって高いサービスが維持されていることに対し、職員はじめ関係各位の努力に深く敬意を表するものである。いつものことながら、自己評価は抑制的であるが、それがこの図書館の矜持であり、絶えざる成長に向けての決意なのだと理解している。

資料費の減額など、図書館をめぐる環境には厳しいものもあるが、市民の期待に応えることで、市民と手を携えた図書館として、よりいっそうの発展を期待している。

・三つの柱のいずれも、コロナ禍におけるやむを得ない事情などを考慮すれば、十分な運営がなされていると判断できる。自己評価も妥当なものである。

とはいえ、リソースの限られるなかでは、「効果」とともに「効率」も大切である。今後も、利用者(市民)の声(ニーズ)にさらに耳を傾けながら、上述のとおり、地域団体・市民(利用者)との協働を進めるとともに、「図書館」だからできることにより注力していくことを期待したい。